

「結局のところ、世の中カネやで。」

江戸川乱歩『屋根裏の散歩者』の主人公は、定職につかず、趣味も続かず、退屈な毎日を過ごしていた。そんな彼に、ついに夢中になれることが見つかった。新たな下宿先の天井裏から、他の住人の生活を垣間見ることである。

覗いた穴から、キレイとは言えない**他人**の性根の部分が見えると、人はその場から離れられなくなる。**垣間見**(古語だね。一般的にはちょっと馴染みが薄い言葉。何とか伝わるギリギリの言葉かな)には、(**どんな魅力か、少し書き足して**)魅惑が宿っているのだ。そのような、目の逸らせない作品を描きたくなった。

以前から、人が指で示すジェスチャーに興味を感じていた。と書くと、あなたの個性が伝わらなくなるね。活かそう。ただ、「指で示すジェスチャー」は、「指のジェスチャー」でどうか。ジェスチャーにはもともと、「示す」という動詞が入っている言葉。指の**で**表すジェスチャーが面白くは面白い。←そこから何か派生できないか(派生は、基本的に自動詞。目的語を取らない。主体的に何かを生み出す意味なら、これ以外の言葉を探してみて)。元々あったこのアイデアを土台に、穴は指で**つくる**ことにした。お金を示すジェスチャーから、(この言葉の主語はだれか→)現す裏の顔として、「金の亡者」が浮かび上がった。**を浮かび上がらせたかった。**(←あなたの狙いと、現実**に**それが達成出来ているかは、分けて考えることもできる。どっちが良いかな。アーティストらしい、自分の世界を主張する姿勢の一方で、「離見の見」も欲しいところだ)

私は作品を(**この主語はいわずもがな、か？ 作品の写真を送ってくれないか？**)、下から上へ、段階的に構成する。ふつふつと(**どんな心情かな**)心情が**ふつふつ**と湧き上がる**さま**様を表現した。(さまを表現した。と、さまを表現しようと試みた、だと、作品に添付する文章としてどちらが良いか。前者を採る際には、何が必要か＝作品を客観的に見ているか、主観的に見ているか、その二つを往来しているか)

下:お金を表すジェスチャーと、福澤諭吉の顔

中:5本すべての指で作った輪と0の羅列

上:OKサインと笑った口

3つを繋げると、「お金(1万円札)があればあるほど(0の数が多いほど)OK(笑みがこぼれる)」という流れだ。

【うーん、このあたり、あなたの作品が目の前にあると一目瞭然かな、文章を見るだけの指導に、限界感じる。作品の写真をおくってほしいです】

(だれの)化けの皮が剥がれてきているため(**のを示すため**)、背景に亀裂が走っている。

これは、2回生のとき、五芸祭に出すために描いたものだ。自分が面白いと思ったイメージ

を、観る人にも伝えられるか、あるいは観る人と共有出来るか←思わせられるか。制作意図を、鑑賞者に共有してもらうために、あるいは、確実に伝えるために、あるいは鑑賞者の心を、私のそれと共振させるために←意図を共有させるために、何を、どう描けばよいのか(青字の部分はかなり強烈な言葉だ。享受者は、作家が強い力をもって、一定方向へ導けるものなのかなあ)。自分の作品を「人に見てもらおう」という状況を、強く意識しはじめた頃の作品である。

私が、他者の作品をの評価する際はを決めるときは(評価を決める→評価する)、ほとんど第一印象が決め手となる担っている(このあたりの表現は、やや冗長)。「人の印象は第一印象でほとんど決まる」と言われるが、作品においても、同じではないか。

そう考えているのせいだろうか、自作でも作品の完成イメージは、「一目見た瞬間に、(観る者を、と入れる)立ち止まらせる」ことに重きをおく。「何だ、これは？」と、観た人の心を驚づかみにしたい(←だと、あなたの言いたいこととは異なるかな？ 刺激したい、よりももっと強いんじゃないだろうか)刺激したい。まず、それを果たしてそこから更に、私が込めたイメージを、1つでも良いから共有してほしいのだ。あるいは、私は受け手と、私が作品に込めたイメージを一つでも良いから共有したいのだ=ここは、主語がないために、文意がぼやけてしまっている。

今回の作品の場合、共有したかったのは、「気持ち悪さ」である。色使いなり(なり、を使うなら、何度か繰り返すのが定石です)、皺だらけの手、諭吉の目など、どれでも良い。「ね、気持ち悪いですよね (自分と受け手との間での共有なら、気持ち悪いでしょう？ かな)」と、共有の対話(←だれとだれが？)ができれば、制作において、これほど嬉しいことはない。

しかし、一番気持ち悪いのは、人の生活の盗み見に耽る主人公のような、覗く側の人間ではないかと思うのだ。 ← この、最後の文章が、実際に作品を見る人には自然に感じられるかどうか、それを見てみないと何とも言えないなあ。何とか、その作品をこの文章と同時に見たい。写真ある？

作品が独り歩きして、どのような存在になってほしい、と考えているか？

